



平成31年1月31日(木)

# 藤 棚

第363号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>  
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

## 風邪の予防について

校長 小川義男

大学受験も近づいている。風邪には気をつけていきたい。「万病の元」とも言う。こじらせる  
と重い病気の原因にもなりかねない。

平凡な心がけだが、私の習慣を参考にして欲しい。

大切なのは、手を良く洗うこと。石鹸で丁寧に洗うようにして欲しい。私は、よく守っている。  
石鹸で洗うことが大切だ。医師は手術前に、驚くほど丁寧に洗う。

朝起きたら、うがいをする習慣の人もいると思うが、寝ている間に、口中は、雑菌で一杯にな  
っている。口中を、丁寧に洗い流す事は、健康に大いに影響する。

私は、風呂には、朝、入る習慣だが、湯から上がったときには、冷水を、肘から先、膝から下  
に、シャワーで掛ける。こうすると、湯冷めすることがないように思う。中には、全身に冷水を  
浴びる人もいるそうだが、とても私にできる芸当ではない。

一番大切なのは居間、寝室に陽光を導き入れる事だ。「眩しいから嫌」、と言う人もいるかも  
知れぬが、私は、部屋、寝室を出るときには必ず陽光を導き込むことにしている。寝室の場合は、  
夜具の殺菌、消毒にも役立つ。

校長室が、午前、全開放されているのは、そのためである。

夜間、寝室で最も大切なのは、温度もさることながら、湿度が大切である。加湿式エアコンも  
あるが、最近のような異常乾燥では、それも役に立たない。結局、別に加湿器を用意して、寝室  
の湿度を保つようにしている。

話が逸れるが、このところの乾燥は異常である。不老川の水が完全に乾いていた。最近、多少  
の水が流れているが、あれは生活排水ではないかと思われる。

この乾燥は、健康に支障があるだけでなく、火災を招来する危険もある。入間市にも、住宅密  
度の濃い地域もあるから、余程、火災予防に心がけなくてはならない。室内だけでなく、室外に  
も緊急防火用水を用意する必要があると思う。

ともあれ、このようなときには、インフルエンザが大流行する危険もあるので、生徒諸君も、

くれぐれも健康維持に留意して欲しい。

また、こんな時には、栄養に注意することも大切である。男子も、家事に協力して、一家全体の安全を守り抜いて貰いたい。

## イギリス人の土地に対する執念

名画「風と共に去りぬ」を見ましたか。昔のアメリカ映画ですが、「カサブランカ」に次ぐ名画だと、私は思います。カサブランカは、世界一の名画だと思いますが、高校生の人生体験では、少しわかりにくいところもあるかも知れません。何しろ私は、この映画に惹かれて、モロッコに二度も行ったくらいですから、将来諸君と一緒に、この映画を見れたら、どんなに素晴らしいだろうかと思います。「風と共に去りぬ」も私は DVD を持っていますから、是非一緒に見たいものです。私は、イギリスが好きで、スコットランドへ三度もドライブしました。ネス湖にも二度行きました。但し、アイルランドには、まだ行ったことがありません。アイルランドは、今もイギリス政府に必ずしも服しているとは言えません。土地も荒れたところが多いようです。「風と共に去りぬ」の終わりの方で、父親が主人公スカーレット・オハラに、「人間には、土地が一番大切だ」と言うことを教える場面があります。荒れたアイルランドだから、移民に出たのかも知れませんが、イギリス人全体が、故国を愛する気持ちが、極めて強いようです。アルゼンチンに奪われたフォークランド諸島を、イギリスは 1982 年に取り返しました。

あの時、閣僚は誰も賛成しなかったのですが、サッチャー氏が、「この内閣に男は一人しかいないのか」と言った話は有名です。王子もヘリコプターに乗って戦いました。

国土というものが奪われた場合は、絶対に取り返さなくてはなりません。

日本も、北方領土を、ロシアに不法に占領されていますが、小さな小さな、齒舞、色丹で手を打とうとする政治家があります。そんなことをすると、世界中の国々が、「日本という国民は、一旦占領してしまえば、結局好きなように支配できる国民だ」と思われてしまいます。領土は寸土たりとも譲らない、これが原則なのです。

イギリスは、戦争に強い国ではありませんが、ドイツに侵略されそうになったとき、当時の首相チャーチルは、大蔵省の「地下壕」に泊まり込んで戦いました。今も、War Cabinet Room として保存されています。私は、彼らにとっては、当時他国の、軍国少年だったのですが、何度、あそこを訪れたことでしょうか。

北方領土は、齒舞 色丹 国後 択捉の島々ですが、それらは、沖縄本島の 4.2 倍もあります。齒舞 色丹の小島でお茶を濁すなどは、絶対に許せないことです。

大きいのは、択捉 国後です。千年かかっても、これは絶対に取り返さなくてはなりません。

アメリカは、外国になっていた沖縄全体を返したではありませんか。河野外務大臣の気骨に期待したいと思います。

マーガレット・ミッチェルの *Gone with the Wind* を、是非読んで下さい。

慶應大学だったかな、学内の試験で、「風と共に去ったのは何か」という問題が出たそうですね。諸君も、作品を英文で読んでみて下さい。